

日本語オノマトペ学習支援に向けて
—食感の理解に関する異文化コミュニケーション—
Towards Japanese Onomatopoeia Learning Support
— Cross-Cultural Communication around Food Texture Understanding —

鈴木 雅実*¹
Masami SUZUKI

*¹ KDDI 総合研究所
KDDI Research, Inc.

In the background of increasing inbound visitors into Japan, there would be a problem of cross-cultural communications. ICT support to effective instruction considering the states of learners' activities is also important. Our attempt is to provide clues for using contextual information as clues of selecting appropriate meaning of Japanese onomatopoeia. We will also discuss about related issues of cross-cultural communication support.

1. はじめに

外国人にとって習得が困難とされるオノマトペ(擬声語)が実際に使用される文脈テキストを収集し、周辺に分布する語の特徴を学習者に提示することを通じた支援の可能性があるが、一般的な共起に基づく関連語提示では、その場の状況や利用者にも必ずしも適合しない恐れがある。本稿では具体例として食感に関する表現の言語間の非対称性に着目し、前提条件や多様な観点からオノマトペの意味を適応的に選択しつつ理解を促す方法について考察する。さらには、文化特有の価値観パターンと世界共通の価値観パターンとのギャップを軽減するため、異文化間のコミュニケーション支援の問題としてオノマトペ理解を捉える際の課題を探る。

2. 研究の背景とねらい

2.1 背景

日本語と諸外国語の間で、語彙の多様性に大きな相違が見られる分野の一つに、食物・料理の食感に対する表現がある。関連する先行研究として農研機構の早川文代による、日本語の食感(texture)を表す語彙の体系化がある[早川 2013]。同文献中の言語間比較(引用)によれば、日本語(445 語)は、フランス語(227 語)／中国語(144 語)／フィンランド語(71 語)と比して、非常に多くの食感語彙を持ち、その約 70%がオノマトペと報告されている。従って、言語間の語の対応関係も非対称であり、日本語で細かく表現が分れていても、対応する(辞書的な暫定訳としての)訳語が同一である場合も多い。そうすると、その訳語のみでは、意味を伝える点において限界が生じてしまう。そこで、該当オノマトペに関連する語彙を同時に提示することにより、理解の促進を図ることが期待される。そのような関連語彙を、大規模テキストコーパス中に現れる用例文脈から、該当表現の近傍に出現する感情等の感性特徴の共起分布を相対的に抽出することにより、それを図示するような方法で学習補完情報として提示することが有益であると考えられる。[鈴木 2015]では、この手法提案と同仮説の検証に向けた考察を述べた。

2.2 研究目標

本稿では、日本語オノマトペのうち、食感を表す表現を具体的な学習対象として取り上げ、その言語文化間の相違に起因するギャップを軽減する方向で、どのような情報提示が有効かについて検討する。着眼点の第 1 点は、単独の語として理解することが困難なオノマトペが使用される状況・文脈の特徴をどのように捉えるかという問題である。第 2 点は、コーパスを用いて特徴抽出を行う場合の留意点と結果の提示方法である。なお、関連研究で、外国人へのオノマトペ学習支援に関する先行事例は比較的少ないが、感性情報を利用したオノマトペ学習システムや、留学生を対象としたオノマトペの学習を支援するための電子絵本システムなどが提案されている([鈴木 2015]に記載)

3. 食感に関する語の分布と関連語

3.1 辞典類の記述例に見る特徴

日本語オノマトペの用法に関する実用書としてすでに多数の辞書類が刊行されているが、食事関係に対象を絞ったものに「おいしさの表現辞典」がある[川端・淵上 2006]。同辞典には味覚全般の収豊富な用例が典拠とともに収録されている点に価値がある一方で、それらが一般的な用法であるかは疑問が残る。また、英語を比較対象として微妙なニュアンスの違いをマンガで紹介する書籍に「オノマトペラペラ マンガで日本語の擬音語・擬態語」があり、習熟した翻訳者による対訳例文が記載されているが、個々のオノマトペに対して定訳がないことが判る内容となっている[水野 2014]。

3.2 食感オノマトペの体系化と関連語

2.1の背景で参照した文献[早川 2013]では、食感(texture)に関する語の体系化を試みている。音韻的類似性等により縮退した 271 語群の特徴分類に際して、各語が形容する食物名を官能評価者 18 名が回答した結果(935 品目)に基づきクロスpondens分析を行ったものである。それから導かれた主要な評価軸として、第 1 に力学的特性(破碎のし易さ)、第 2 に幾何学的特性(空気による軽さ)が解釈可能となっている。[Hayakawa 2013]における分析結果として示された 2 次元散布図から、幾つかのオノマトペを抽出して表示すると、図 1 のようになる。

連絡先: 鈴木雅実, KDDI 総合研究所 教育・医療 ICTG,
〒356-8502 埼玉県ふじみ野市大原 2-1-15
Email: msuzuki@kddi-research.jp

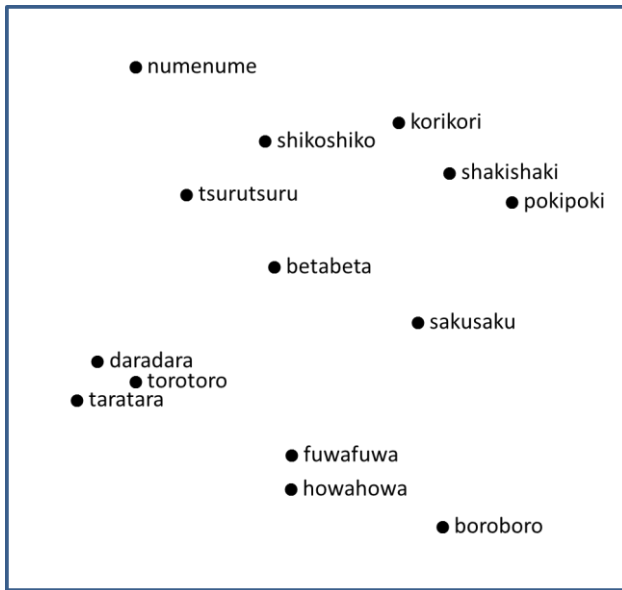


図 1. 2次元の食感オノマトペ散布図 ([Hayakawa 2013] より)
 横軸＝力学的特性: 破碎のし易さ(-) ⇔ しづらさ(+)
 縦軸＝幾何学的特性: 空気による軽さ(-) ⇔ 重さ(+)

3.3 学習支援の観点から

特定の会話シーンに登場するオノマトペに対して、その理解を促進する支援情報をどのように提供できるかについて検討する。上記の2軸の空間上での食感を表す各オノマトペの相対位置を知ることも参考になると考えられるが、使用される文脈内の関連語を合わせて提示することにより、理解が深まることが予想される。ここでは、レストラン等での食事(注文と飲食)シーンを前提とする。料理名などから連想される様々な語やエピソードや、食感を表すオノマトペの他にも、関連する別の料理や素材、調理法、由来その他のエピソードが存在する。

表 1 は、日本へ観光等で訪れる外国人旅行者(インバウンド)に好まれる食事メニュー100件を含む料理名にまつわる様々な関連語句やエピソード等を調査した結果の一部である。この主旨は、異文化コミュニケーション支援の一環として、逐語訳的な翻訳情報だけでは異文化間の話者同士の意思疎通が難しかったり、共感を得ることが難しかったりする状況を緩和しようとする試みである。その一手段として、対象物の背景的な知識を提示する場合の情報内容の例示に相当する。

前章に記したように、オノマトペはそれ単独では理解が難しいことからすると、類似する語との近さ/遠さ等の直観的な距離感を示すことが学習・理解の参考となる(図 1 のような表示の例)。さらに加えて、該当オノマトペが使用される文脈(一例として食事のシーン)における関連語句(料理名を含む共起語ほか)を知ることが手掛かりとなり得る。ただし、その関連語自体が文化の相違により想像が及ばない場合も生じるので、工夫が必要である。従って、図 1 に例示したような、2(多)次元配列のような、知識のネットワーク化による俯瞰手段の提供は重要である。

4. 異文化コミュニケーション支援への課題

本稿で考察対象として取り上げた食感を表すオノマトペに関しては、各文化圏の食文化/食習慣や言語体系の違いなどが影響した語彙システムの相違が顕著に観察される分野である。そこで、多少は日本語の学習経験がある来日外国人が、旅行や日常生活の中で体験する機会の多い食事の場面を利用して

表 1. 料理名に関連する語とエピソードの例

| | |
|---------|---|
| 料理名 | 親子丼(Oyakodon) |
| 関連オノマトペ | ふわとろ(soft and nice) |
| 他の関連語 | 他人丼(Stranger Bowl) |
| エピソード例 | "Bowl of rice covered with pieces of chicken and onion cooked in egg. Some dried seaweed decorates the top. Pickles may be served on the side. One of the popular "donburi" rice dishes. Oyakodon, literally "parent-and-child donburi", is Japanese rice bowl dish, in which chicken, egg, and other ingredients are all simmered together in a sauce and then served on top of a large bowl of rice. The name of the dish is a poetic reflection of the fact that both chicken and egg are used in the dish." |

オノマトペの理解を助けることは、その後の日本語学習全般の意欲促進等に繋がるものと考えられる。すなわち、食感にまつわる多様な知識との関連付けにより、日本語オノマトペの使用環境(条件)が、個々の語彙の場合だけでなく総体として把握可能なレベルに近づくことが期待される。

このことは、日本の食文化に典型的に見られるオノマトペが、一種の文化固有の価値観の中で共有されていることを認識する契機とも捉えることができるであろう。これは、本大会の近未来チャレンジセッションとして発足した「世界価値観と国際マーケティング」([加納 2015] [加納 2016])で目指す方向性とも関連する。その中の「多国籍・多言語の消費者のもつ価値観・オピニオン・行動に関するデータの共有」に向けたアプローチとして、各文化が重視する価値観(食感の多様性など)をパターン記述し、相互比較できるようにする意義は大きい。さらに他の文化領域まで拡張可能となるように一般化することが次の課題である。

なお、本研究課題に関連する調査の一部は、東京工業大学主管の COI(JST の成果展開事業)における空気・行間を読む、意識する技術(『以心電心』AI テクノロジー)プロジェクトの支援によるものである。

参考文献

- [早川 2013] 早川文代: 日本語テクスチャー用語の体系化と官能評価への利用, 日本食品科学工学会誌, Vol.60, No.7, pp.311-322, 2013.
- [鈴木 2015] 鈴木雅実・木村寛明: 外国人のための日本語オノマトペ学習支援手法の一検討, 人工知能学会第 29 回全国大会, 3G4-OS-05b-6, 2015.
- [川端・淵上 2006] 川端 晶子・淵上 匠子(編集): おいしさの表現辞典, 東京堂出版, 2006.
- [水野 2014] 水野良太郎編, 読売新聞英字新聞部監修: オノマトペパラペラ, 東京堂出版, 2014.
- [加納 2015] 加納史子・谷田泰郎: 世界価値観データベースに基づく世界消費者の把握, 人工知能学会第 29 回全国大会, 1D3-NFC-00-1, 2015.
- [加納 2016] 加納史子: 価値観ベースの異文化マーケティングの課題と将来展望, 人工知能学会第 30 回全国大会, 3B3-NFC-05a-4, 2016.